

平成26年度 事業報告

社会福祉法人 西予総合福祉会

社会環境の変化に伴い、多様化・複雑化する地域の福祉ニーズに対応するため、平成26年度は法人にとって新たな分野への挑戦の年度となりました。

まず、「住み慣れた地域で心身ともに健康で人生を終えたい」の考えのもと在宅福祉サービスの充実を目指すため、6月より藤石秀三医師を医院長とし内科・外科・リハビリテーション科を診療科目とした松葉診療所の運営を開始しました。同時に訪問リハビリテーションを併設し訪問診療、訪問看護、訪問リハビリに対応できる診療所としました。また、リハビリ専門デイサービス歩の姉妹事業所として三間町で午前営業のデイサービスを開設しました。翌年1月には特別養護老人ホーム松葉寮内に「ヘルパーステーションまつば」を設立し訪問介護事業を開始し、在宅生活を支援する体制を整えました。

つぎに、社会的養護の必要な子どもの支援として、4月より吉田町の社会福祉法人吾子苑から事業譲渡された施設において、児童養護施設ひまわりの家（定員30名）の運営を開始しました。また、高齢者の入所支援としては、翌年度より西予市から事業譲渡される養護老人ホーム三楽園（定員50名）の開設準備に取り組みました。

そして、仕事と子育ての両立支援に関しては、4月より宇和保育園において午後11時まで子どもを預かる夜間延長保育「よつばルーム」の運営を開始しました。また、明浜町においては、行政からの要請により学童保育「おれんじクラブ」の運営準備を整えました。

施設整備関連では、平成28年4月のひまわりの家移転に向けて特別養護老人ホーム松葉寮隣接地に建設用地の取得を行いました。また、就労支援事業所いっとき館の作業棟の建設、障がい者グループホーム夢の家のスプリンクラー設置など生活環境の改善に努めました。

職員の働く環境改善の取り組みとしては、平成24年度から検討を重ねた計画を新人事制度として運用を開始し、働きがいを感じられる職場、人材の確保と定着につながる制度の確立を目指すこととしました。

経営的には、新規事業の設備的、運営的な初期投資やあんしんの家系事業の利用者減少などのマイナス要因はありましたが、障がい施設や特養など好調な事業からの繰り入れで補てんすることができました。

これらのことから、法人の基本理念を支える三つの力「顧客の満足」「職員の満足」「経営の満足」の向上に努めながら、各事業所において事業を展開することができた年となりました。